

第16回日本学術振興会 育志賞を受賞して
筑波大学 応用理工学学位プログラム 博士後期課程2年 野沢 公暉

1.はじめに

この度、「第16回 日本学術振興会 育志賞」を受賞いたしました、筑波大学博士後期課程2年の野沢と申します。私は2024年度、博士後期課程1年次に笹川科学研究助成として97万円のご支援を賜りました。このたび育志賞受賞を機に、日本科学協会様よりホームページにコメントを掲載いただく貴重な機会を頂戴しました。本稿では、笹川科学研究助成に対する思い、後輩研究者の皆様へのメッセージ、そして私自身の今後の展望について述べさせていただきます。

2. 笹川科学研究助成への思い

私は、自身の専門分野とは全く異なる分野の方のお話を伺うことが好きで、その点においても交流会は非常に有意義で、心から楽しむことができました。中でも、森林に関する研究をされている方のお話はとても新鮮で、今でも鮮明に記憶に残っております。このような分野外の知識は、将来、思いがけない形で研究や人生に役立つのではないかと感じています。そしてその際には、自らの専門として主体的に学んだ知識以上に、大きな力を発揮することもあるのではないかと考えております。このような貴重な交流の場を設けてくださった日本科学協会様には、心より感謝申し上げます。

3.後輩研究者へのメッセージ

最近感じていることとして、他人の話は「話半分」くらいで受け止めるのがちょうどよいのではないかと思います。助言をしてくる人の多くは善意から発言しているのだと思いますが、時代背景も異なりますし、そもそも経験する人間が違えば、同じ選択をしても同じ結果になるとは限りません。特に研究の世界においては、他人の歩んだ道をなぞることばかりを意識していると、面白い成果は生まれにくいのではないかと感じています。何より、助言を与える側は、こちらが失敗したとしても、その責任を取ってくれるわけではありません。研究者には、これまで真面目に勉学に取り組んできた人が多い分、他人の意見を必要以上に真剣に受け止めてしまう傾向があり、その点が一種のジレンマとなって、どこか歪さを感じる場合があります。だからこそ、他人の話はほどほどに受け流しつつ、自分の気持ちに正直に生きていくことが大切なのではないかと思います。

4. 今後の展望

博士号取得後の2027年4月頃から、アメリカの大学にて3~4年程度、ポスドクとしての留学を考えております。現時点では、恐らくUCLAへの滞在を予定しています。もともと特別なコネクションがあったわけではありませんが、思い切ってUCLAの先生へメールをお送りしたところ、幸いにも受け入れのご快諾をいただくことができました。

ポスドク期間終了後は、日本の大学に戻り、生体工学分野の研究を続けることを現時点では考えておりますが、私自身やや気分屋なところもあり、正直なところ将来についてはまだ分かりません。ただ、少なくとも今の自分から見て、つまらない人間になっていないことを願っています。

終わりになりますが、年齢を重ねても保身に走ることなく、常に若々しい挑戦心を持ち続け、科学技術の発展に貢献できるような、育志の名に恥じない志の高い研究者であり続けたいと考えております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。